

しごとと能力研究学会 第5回全国大会

愛知学院大学版 アントレプレナーシップ教育の実践報告

2012年10月28日

(場所: 愛知学院大学薬学部棟201教室)

愛知学院大学経営学部教授 鵜飼宏成



アントレプレナーシップ教育とは

狙い

変革を起こす人の
基礎を築く教育

学習の場づくり指針

起業家マインド
あるいは
起業家活動
の体得を促す学習

涵養する能力・姿勢

企画能力

- 問題発見→何をなすかを企てる
(オンリーワンの探索力・企画力)

開発能力

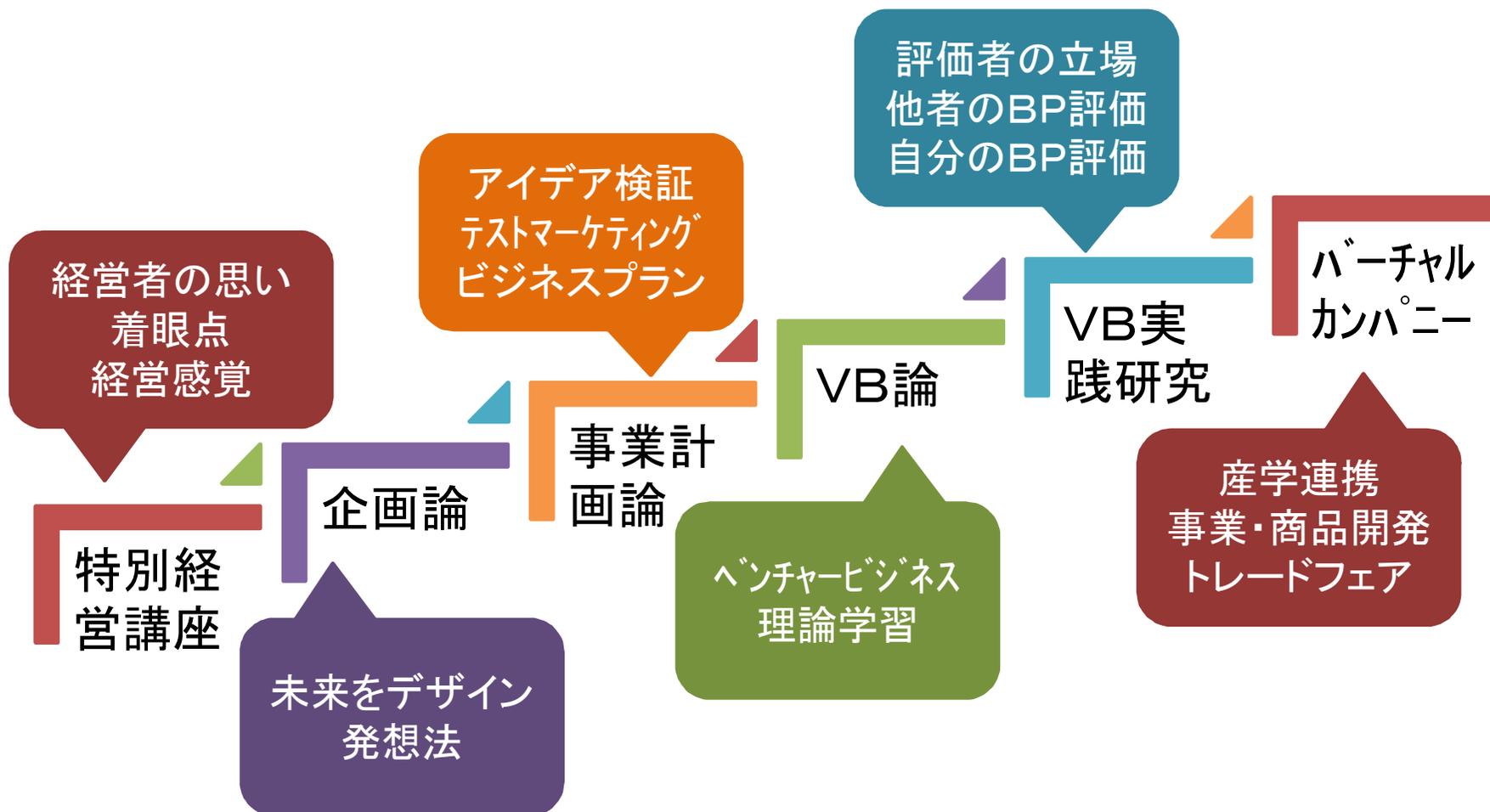
- 解決方法→状況に応じ実行する
(開発力・変革推進力)

地頭

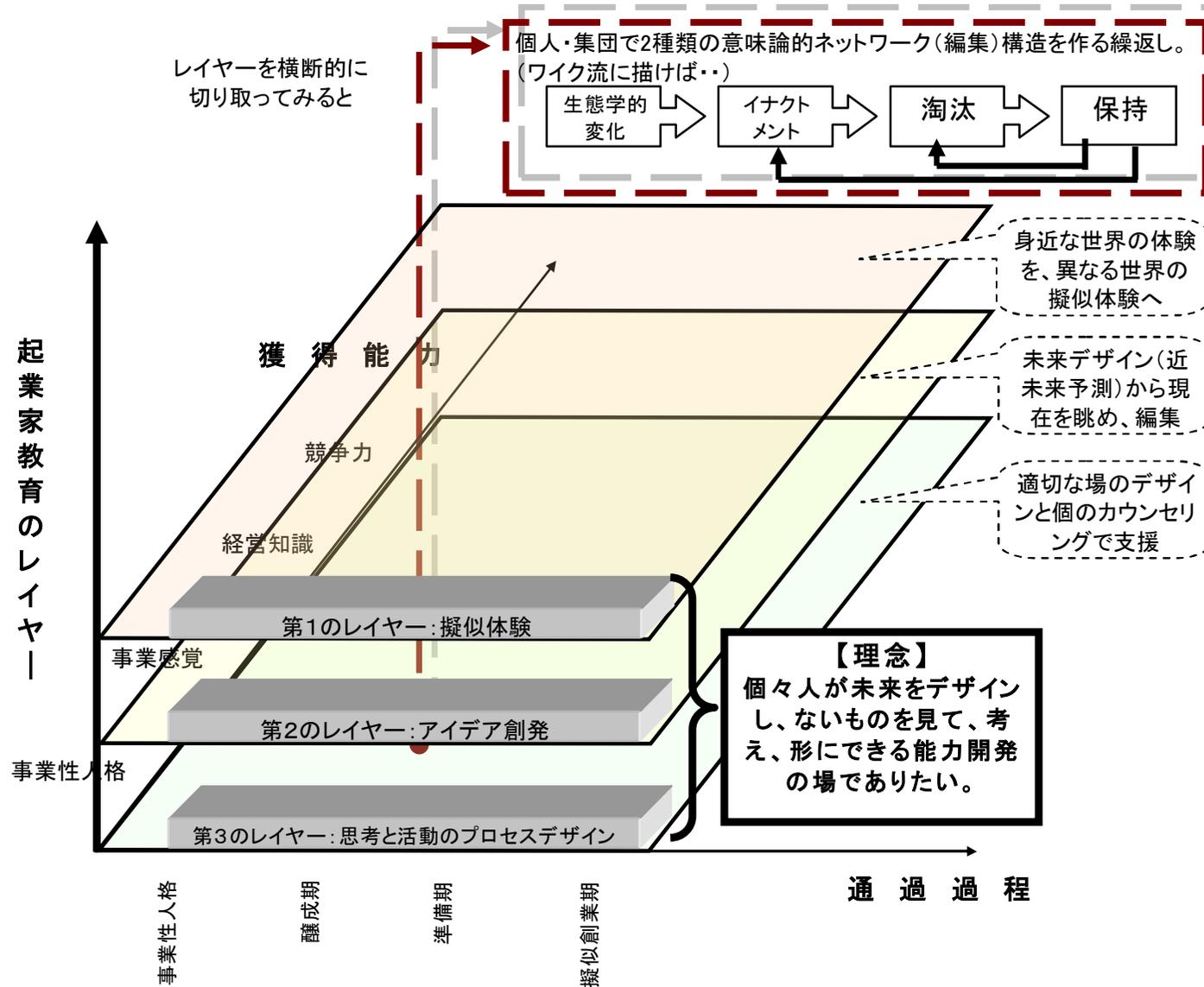
- 初めての出来事に出合っても状況を開する (タフネス・感得力)



教育のカリキュラム



学習のカリキュラム

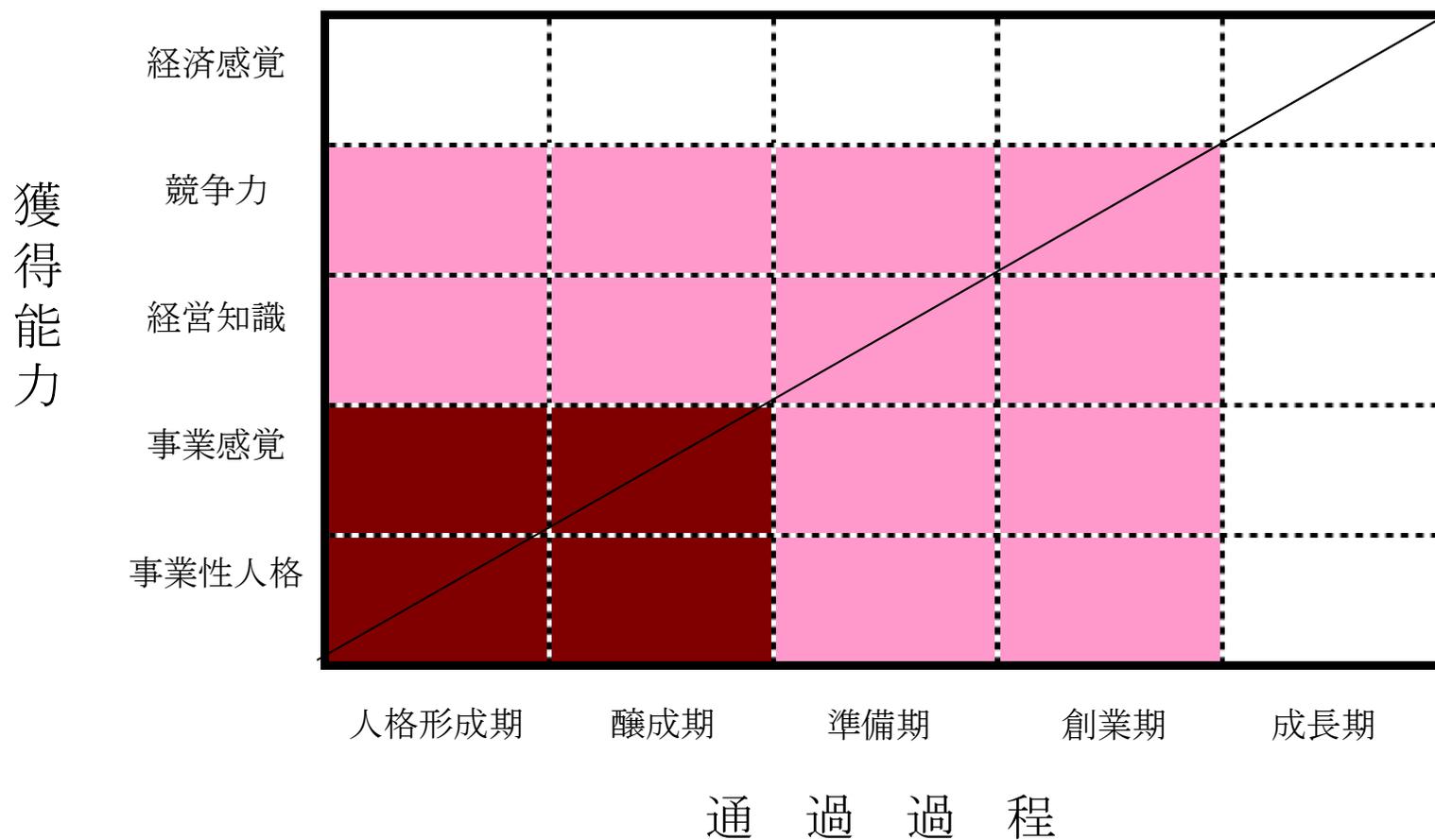




先人達から得た3つの示唆

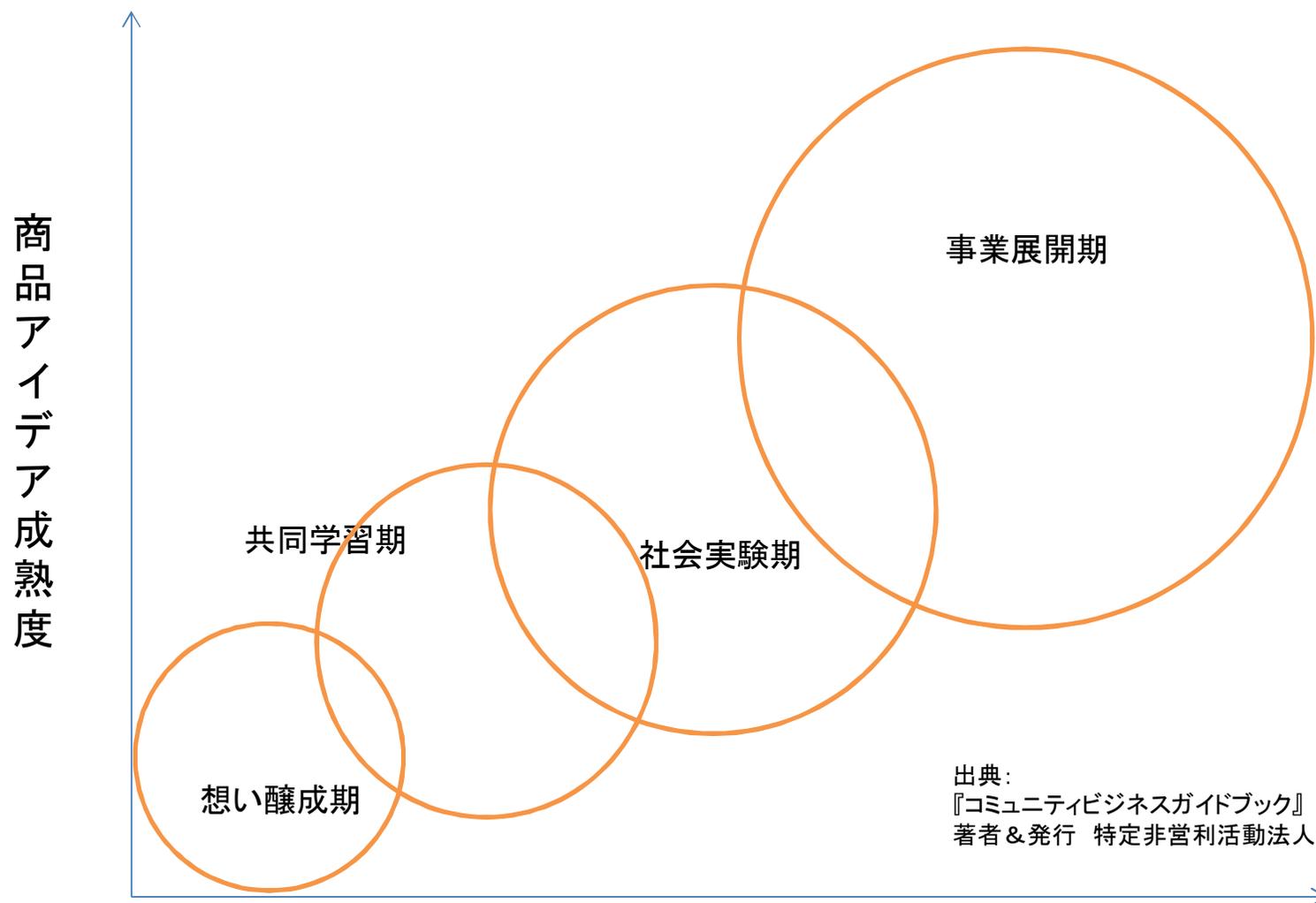
- ① 起業時、アントレプレナーは未完成（アントレプレナーは育成されて完成する）。
- ② 起業の前に身に付けておく能力があり、学ぶ「こと」や「成すべきこと」を意識することが大切だ。
- ③ 主観的で個別解のアントレプレナーシップを客観的な思考形式で教育してはいけない。

アントレプレナー・モデル



注：星野敏氏の「アントレプレナーモデル」を鵜飼が表現形式を変更し引用。

コミュニティビジネス発展段階





補足

事業性人格

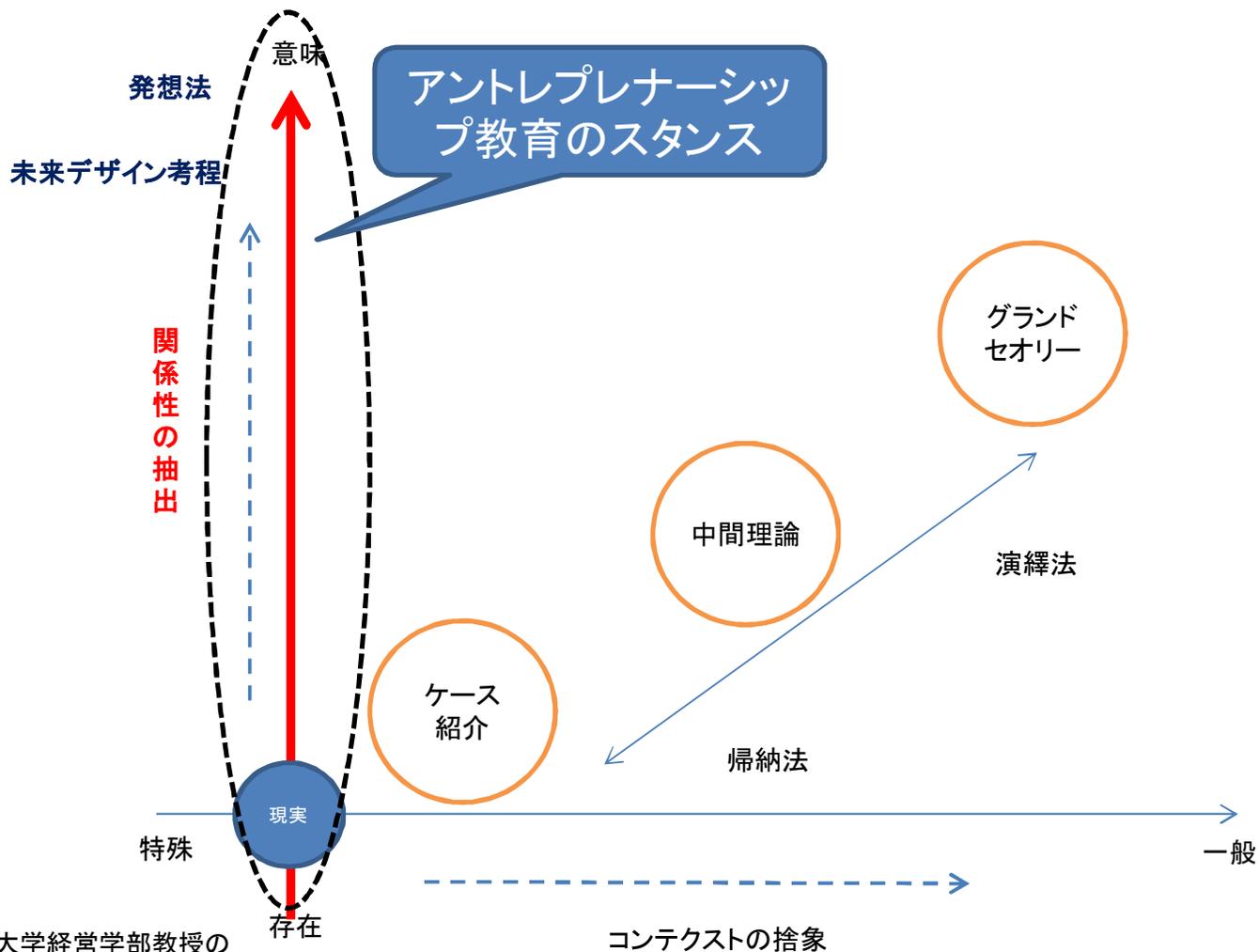
- 「困難に打ち勝った後に訪れる達成感・充実感を体験し、中途半端な段階で諦めないことの意味を理解していること」「何事も一人では成就せず、周りからの支援（状況からの支援）や協力があって成就することが分かっていること」等の変革を推進する心構えや姿勢。

事業感覚

- 「感得力と発想力」
- ありのままの事実を認識することを出発点にしており、一回限りの個別解を捉え（感じ取った変化から道理を悟ること）、一回限りの個別解を生み出す（仮説的推論をする）効果に優れている。

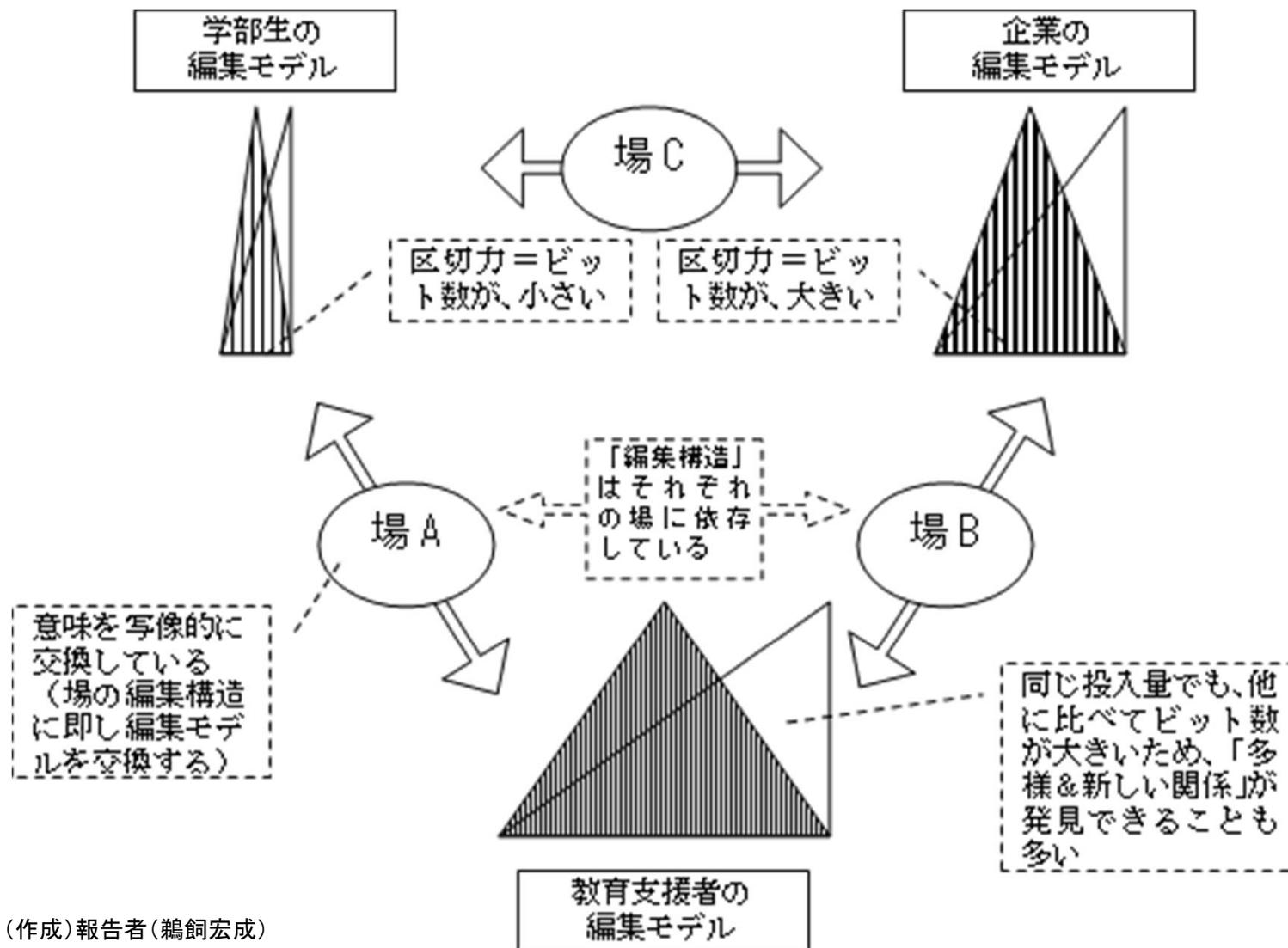


アントレプレナーシップ教育 のスタンス



(注)
内藤勲愛知学院大学経営学部教授の
紫苑研究会での報告内容に、
報告者(鵜飼宏成)が加筆したもの。

学習を促す コミュニケーション・モデル





愛知学院大学版 アントレ教育の特徴とは

- ① バーチャルカンパニーとして、自分の常識だけでは通用しない世界に踏み込み、自己変革を促す場を用意。
- ② 学習者の悩みを適切な「外部」に求めて解決するオープンな教育支援者が存在。
- ③ 「発想力」学習成果の第三者評価は高い。
- ④ 変革を推進するための「行動力」「他者を巻き込む力」を高める学習環境デザインが課題。